

令和元年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

第5回、第6回研修会

- 日時 令和元年8月19日(月)、20日(火)
9:50～
- 場所 桃生公民館、河北総合センター
- 講師 広島大学大学院 栗原慎二教授

☆研修内容

- 19日午前：MLA概論
- 19日午後：MLAを支える4つの理論
- 20日午前：愛着に課題を抱える子どもの理解と支援
- 20日午後：ピア・サポート概論



2日間に渡り、万石浦中学校千葉先生から「協同学習について」、桃生中学校三浦先生から「SELについて」、中津山第二小学校横田先生から「PBISについて」の実践発表をいただきました。

受講した先生方からは、「具体的で分かりやすい」「自分の学校でも実践するための手立てとなった」等の感想が寄せられました。（詳しいお問い合わせは、[各校の担当者まで](#)）

【愛着に関する話題となったこと、助言いただいたこと】

- ① 愛着に課題がない子はわずか**25%**！
- ② 障害をもつ子が変わるべきではなく、変わるのは環境である。
- ③ 問題が持続するのは、問題が起きたときに対応するから。普段の行動のときに交流と交流欲求が満たされていく。



【ピア・サポートについて話題となったこと、助言いただいたこと】

- ☆サポートは、教師よりも友人からが効果的。
- ☆総社市の豪雨災害時には、市役所に約1000人の高校生が自主的に集まり、ボランティア活動を行った。（ピア・サポートの力が発揮）
- ☆ピア・サポート活動につなげることを意識したSELの指導計画を。

取り組んでいただきたいこと

- 研修内容の確認及び疑問点についての話し合い。（短時間でも！）
- 自校で取り組んでいくべき内容の精選。（例：SELの指導計画の見直し、PBISの行動チャートとカードの扱い方の検討・・・）
- 校内研修リーダーを中心とした、研修組織の見直し。



【受講者より】

1日目（◇：午前、★：午後）

◇現在の子どもたちの現状を知ることができ、原因を考えることができました。その原因をどうするのかというのが、ピア・サポートや協同学習につながっているのだと感じました。後手に回る指導ではなく、信頼を柱とした関係を築き、互いに支え合える環境づくりが大切だと感じました。

◇多様な子どもたちがいる中、一人一人理解するには、子どもたちを見とるだけでなく話し合うことが大切だと感じた。

◇校内暴力件数の推移の数値と実際に聞き、衝撃を受けました。欲求が満たされていないことによって、このような状況になっていることを知り、今後の学校教育の在り方についても考えさせられました。

★ペン回しで集中できるタイプの自分としては、日本の教育環境がより柔軟なものになるとよいと感じています。自分の学校で多様性を認められる子ども達を育てていけたらと思います。

★乳児期からの愛着形成に始まり、学校での居場所づくりや交流など、その子一人一人が自分の存在意義を感じられたり、安心できる場をつくっていききたいと感じました。

★実際の経験を踏まえての講義だったので、とても分かりやすく理解することができました。周囲の先生とも交流したことで、多様な考えに触れられてよかったです。

★4月から石巻の学校に異動し、校内でSELやPBISには取り組んでいるものの、自分自身の指導ではなかなかできずにいました。夏休み中にPBISに取り組むための準備を進めてきたので、2学期からの実践につなげていきたいと思っています。

2日目（□：午前、●：午後）

□問題行動が起きて指導に時間をかけるのではなく、問題行動が起きる前に時間をかけて接していくことが大切だということが分かった。もっともっと生徒たちとかかわる時間を増やしていきたいと思う。また、ピア・サポートの在り方をしっかり考えていきたい。

□書字障害の子に対して、タブレットの活用や板書計画のコピーなどの対応はみんな考えられる。しかし、毎時間、毎日、そういう対応ができるかという点で、現実的には難しいという結論だった。教師の授業力、仕事の段取り、発送の転換など、いろいろな力が求められているのだと感じた。

●栗原先生の娘さんの話は、心に響きました。集中豪雨のボランティア（総社市の高校生）の話も感動しました。

●全職員がチームとなって取り組んでいくことの大切さを改めて感じました。中津山二小の組織づくりを参考に、本校のMLA組織を見直していきたいと思いました。

●自己調整学習について、とても興味をもちました。普段の宿題の出し方でも子どもたち自身が、自分でやれるようにしたいと考えているので、勉強したいと思いました。

●発達障害、愛着障害、不登校という子どもたちに対して、SEL、ピア・サポート、協同学習、PBISという取り組みが有機的に働いて、良い方向につながっているということが分かった。